

発表番号	チーム名	ナチュレンジャー
	担当者 【所属名】	本田 修江、島 純一、足立 真理子、奥原 有紀 (文化環境部 環境・エネルギー局 自然環境保全課)
Ⅱ - 9		
タイトル	動画で分かりやすい情報発信 ～なぜ野生動物への餌やりはダメなのか！？～	
アピール ポイント	ネット上の啓発動画は『省予算』で持続的	
背景	<ul style="list-style-type: none"> ・鴨川で特定外来生物ヌートリアに餌やりをしていると近隣住民から多数のクレームあり。 ・人間による餌やりにより、異常な繁殖力で個体数が増大し、定着化している。 ・一方で、鴨川で珍しい動物に餌やりできる、とネット上で動画が話題に。 ・一時的に捕獲しても餌やり行為がある限り完全防除は困難。 ・予算ゼロの中、京都土木事務所の協力を得て、パトロールや看板で啓発するも効果は薄い。 	
改善 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・動画で広まる行為には、動画で啓発することを試みる。 ・環境省移入生物専門官の協力を得て、府職員で独自で啓発動画を作成。 ・広報課に撮影・編集の協力を得て、京都府ネットTV (YOU TUBE 版) で公開。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 府民ニーズへ「知恵」による対策。しかも、やってる職員が何とも楽しそうです 😊 by 対話推進者 </div>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・餌やりに対するクレームの減少 (約 100 件→2 件) ・インターネットのサイト「はてなブックマークニュース」、会員制サイト「ミクシィ」などで取り上げられ、多くのユーザーに視聴され、ネット上で継続的に拡散。 ・外来生物だけでなく、トビなどの野生動物に対する餌やり行為そのものが生態系を攪乱するとして問題視する書き込みも。 	
今後の 展開	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市と連携した捕獲に向け調整する。 ・専門家、保健環境研究所の調査に基づく計画的防除の検討。 ・上記と合わせた、啓発パトロールの継続。 	

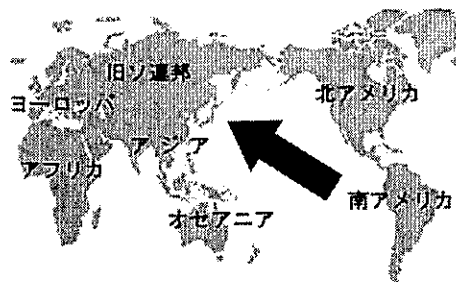
【鴨川で大繁殖：特定外来生物ヌートリア】

ふるさとに 帰りたいよね ヌートリア

もともとは南米原産のネズミ目で1930年代に軍服の毛皮用に大量に輸入され野生化し、環境省指定の特定外来生物となっている。

京都府内の捕獲数は年間200頭、農作物被害額は1千万円を超え、最近では、鴨川でも大繁殖していると通報が相次ぐ。

地元住民や観光客など多くの人で賑わう鴨川では、水草が主食のヌートリアに対し、人間による餌やりが異常な繁殖の要因となっていることが判明……。



【餌やり行為：罪悪感なきネット上の拡散】

パン食べて 異常繁殖 環を乱す

ネット上で餌やり行為の動画が多く発信され、もの珍しさから罪悪感なきユーザーの間で拡散。さらには、多数のテレビ局で観光地鴨川の珍生物として報道され見物客による餌やりを助長し逆効果。

一方で、異常な増殖を促す餌やりは、在来種の生態系をかく乱するとして、専門家は危惧。

家屋への侵入などを恐れる近隣住民のクレームも激増。

餌やり行為そのものを禁止する法律や条例はなく、予算ゼロの中、京都土木事務所の協力を得て、看板設置やパトロールによる地道な広報を続けた。



【これぞネズミ溝：ネット動画の自動拡散】

興味から 動画をクリック 真意知る

動画で拡散したのものには、動画で啓発を。

環境省の出演、広報課の協力も得て職員による餌やり禁止啓発動画を作成。

閲覧数1万件超え、餌やり行為を問題視する書き込みも。

ウェブニュースやSNSサイトなど別サイトで動画が拡散し、予算ゼロでも自動的に啓発効果が持続。

京都府インターネット放送局

ねっとTV京都府

◆餌やりに対するクレーム電話・メールが減少

(動画作成前：100件→動画作成後：2件)

◆ネットによる啓発動画の発信は『省予算』で効果も持続的